

二〇二一年度

国

語

(A  
1日程)

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

□ 次の文章を読んで、後の間に答へなさい。

注<sup>1</sup>

シスに関する感覚はフィンランド人でも多少のバラつきがある。仕事でなんとか締め切りに間に合わせるために努力した話や、仕事がうまくいかなかつた時、諦めずに他のやり方を考え続けて大逆転した話など、身近にシスを見出す人もいる。  
□ A 、シスという言葉を容易に使いたくない人たちもいる。よく、シスの例として厳しい気候条件の中のフィンランドの暮らしが紹介されるが、それは決してシスではないと云う友人たちもいる。

ある友人は「シスには必ず、不可能とも思える困難だつたり、かなり難しい課題が前提としてある。それに対しても不可能を可能にするのがシスなのだから、そんな容易なことでは使えないし、使っちゃいけない」と言う。

別の友人も「私の今までの人生で自分に、シスがあると感じられた出来事は何もない。学生時代、どんなに寒く、吹雪でも毎日1時間歩いて学校に通つていたけれど、それはシスではなくてそれしか方法がなかつたから。車も運転できないのだし」と冷めた口調で言う。

ただ、一つみんなが□を揃えて言うのは、シスは自分の強い決意や気持ちだということだ。「誰かに強制されるものではない。自分がそうしたいからする。誰かの期待のためだけにしているのとも違う。それに、プレッシャーをかけるのは自分であつて、自分が望む形のため努力しているだけ」。

その一方で、「シスは、頑固や無理のしそぎとも紙一重。弱さを受け入れられず、ただただ頭を壁に打ち付けてしまうリスクもある。時にどんなに頑張つても、石を碎こうとしても、ダメな時もある。そういう時には、助けを求める勇気を持つことも必要だ」と友人たちは語る。

フィンランド人がそれをシスと言うかどうかはわからないが、周りにあまり頼らず、自分の気持ちに従つて、最後までやり遂げる  
□ 1 した気質は、日常生活のあちこちで感じができる。

例えば、フィンランドに留学しようと思つた時、私が一番困つたのが留学をあっせんしてくれたり、相談にのってくれるところがないことであつた。アメリカやカナダなどの学校は、日本語で情報が掲載されたり、マッチングや相談機関、手続きを代行するところもある。

フィンランドの場合はほとんどないので、自分で学校を調べ、資料を取り寄せて、わからないながらも手続きをしなければならなかつた。そのことでフィンランド人に不満を言つたことがあるが、その時に「どうして？ 情報もあるし、自分で調べて行動すればいいだけじゃない」と言われた。まさにその通り。インターネットにも各学校にも情報はきちんと用意されている。自分で決めて、行動にうつすだけでそれほど難しいことではないのだ。

□B□、どうしても日本で生まれ育つていると、すべて準備されて、おぜん立てされることになれてしまつて、誰かがアレンジやコーディネートをしてくれないと不安に思つてしまふ。

それは、留学後もそうだ。いろいろと困つた時に相談できたり、世話係的なチューターはいるが、授業の履修をどうするか、どういった授業、単位を取るかは個人個人の判断に任されていて、誰もモデルプランを作つてくれるわけでもないし、枠組みも作つてくれない。全て個人に委ねられているのだ。よく言えば、非常に自由で、柔軟。ただ、悪く言えば非常に放任主義。つまり、フィンランドでは進路も、授業の履修も、就職活動でも、誰かに頼るのではなく、能動的に動くことが当たり前で、それを強く求められているのだ。例えば、フィンランドでは中学生ごろから長い夏休みにアルバイトをする人が多い。アルバイトも大学生のインターンシップも、就職も探すのは自分。学校や大学が斡旋あっせんしてくれるわけでもなければ、日本の就職・転職サイトのようなサービスが発達しているわけではない。

気になる企業のサイトや家族、知人のつてなどを通じて、情報を集めて様々な企業にアプローチする。就職についていえば、みんな一齊に活動するわけではないし、日本のような就職説明会が開催かいりされるわけではないから、地道にトライすることが求められる。

義務教育を終えたころから、道は一人ひとり違い、勉強するのも、社会に出るのも、生活も皆一齊スタートではなく、自分次第。社会人から学生に戻る人もいるし、家族を早く持つ人、後から持つ人、人生設計は□差□別、誰かと比べることは困難である。

以前、フィンランドの大学で教えていた日本人講師が面白いことを言つていた。日本で教えると、研究に関して一つ一つ細かく手順やテーマなどを、段階を踏んで学生に伝え、褒めることで、学生は励む。だがフィンランドではおおまかなやり方とテーマを

与えるだけで、自分で考えて進めていく。ある意味楽だけれど、そのぶん勝手な方向に行きやすいし、後から修正が難しい、と。さらに身近にいるフィンランド人のインターも、やつてほしいことを伝えておくと、自分でやり方を調べて考えて進めていく傾向がある。何でも聞いていいよと言つても、手取り足取り教える必要性はほとんどない。全て聞きながら慎重に進めるのと、とりあえず自分で考えてやつてみると、どちらがいいとか悪いとかではなく、こういったことは普段の生活などで染みついた違いなのだとつくづく感じる。

私自身は、なんでもお膳立てしてあって、ある程度レールが敷いてある日本のやり方はやはり素晴らしいと思うし、楽だと感じる。しかし、それに慣れすぎるとその型から外れることのできない紋切型になつてしまふ危うさもあると感じる。

フィンランド留学当初、ルームメートだったフィンランドの友人に「今、海外で暮らすというと面白い経験をしているんだから、それを文章にして、日本の新聞や出版社に売り込んだほうがいいよ!」と言われた。その時は「そんなことできない」と思つたが、彼女が実際そうしてチャンスをつかんでいるのを目の当たりにして、自分も記事の連載や、出版という道に進むことができた。

周りが、どんなに断られていてもめげずに履歴書を送りまくって研修先や就職先を見つけようとしているのを見て、私もいろいろな人にアピールしまくつて、研修やアルバイト先を見つけた経験がある。とにかくウジウジ考へているよりは、行動あるのみ。自分で情報を集め、常識や型にとらわれず、自由に行動することの大切さをフィンランド人から学んだ。

そして、このように頼らずに自力でやることは、決して困難ではなく、むしろ楽しみでもあるかもしれない。なにしろ、自分の好きにできて、達成感も生まれるからだ。フィンランド人であつても周りと自分を全く比較せずに生きていくことは難しいが、やり方も生き方も、みんなと一緒にである必要がないことは、精神的に救われることも多い。

(出典 堀内都喜子『フィンランド人はなぜ午後4時に仕事が終わるのか』ポプラ社による)

注1 シス:フィンランド語で、努力してあきらめずにやり遂げる力、不屈の精神といった意味。

問一 線 a 「強制」と反対の意味の言葉を次の語群から選び、ひらがなを漢字に直して答えなさい。

語群 「しんせつ」 にんい れいせい ふべん ひてい

問二 線 b 「□差□別」の□にそれぞれ漢数字を書き入れて、「それぞれが様々に異なつてること」という意味の四字熟語を完成させなさい。

問三 □ A・Bに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア A=一方で B=だが

イ A=なぜなら B=例えば

ウ A=つまり B=実は

エ A=そこで B=さらに

オ A=もしも B=さて

問四 □ 1に入る言葉として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 発達 イ 満足 ウ 自立 エ 完成 オ 適応

問五 ━線2「フィンランドの場合」とありますが、フィンランドではどうすることが求められるのですか。本文中から十九字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問い合わせも同じ。)

問六 ━線3「違ひ」とあります、フィンランド人と日本人はそれ研究や仕事をどう進めますか。「フィンランド人は……、日本人は……。」という形で五十字以内で説明しなさい。

問七 ━線4「紋切型になつてしまふ」とは、どういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 他人に聞くことをさけるようになるということ。

イ 教わったことを応用できるようになるということ。

ウ 常識から大きくかけ離れるようになるということ。

エ 同じことをくり返すことができなくなるということ。

オ 決まったやり方以外ではできなくなるということ。

問八 本文の内容として最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えなさい。

ア フィンランドでの生活を通して、筆者は常識や型にとらわれず、自由に物事を決断することの大切さを学んだ。  
イ フィンランド人にとって海外で生活することは珍しく、その面白い経験は記事にするべきだと思つている。

ウ フィンランドでの就職活動は、知人のつてを通じ、長い夏休みの間にみんな一斉に様々な企業にアプローチする。

エ フィンランドでは義務教育を終えて社会に出る時期はそれぞれ異なるが、ほとんどの人がその前に大学に進学する。

オ フィンランド人は「シス」を大事にしており、どんなに苦しい場面でも他人の期待に応えようとして努力する。

〔二〕次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。(設問の都合上、一部省略した部分があります。)

サンティーニ先生の言葉が、ほくの頭の中でなんどもリピートされた。

覚悟を決めて前に進むか、今までとりあえずあと三年やつて卒業証書だけをもらうのか。

ほくには、どうしたいのか、なんて選択肢はない。本気で向きあいたくても、そんな高価な楽器を買えるわけないじゃないか。ほくはサンドロでもリナでもジャン・フランコでもない。なんだかんだいっても両親だけじゃなくて祖父母や親せき一同がすぐそばにいるマルタより、ずっと条件が悪い。

ここまで来たんだ。今のフルートのまま、音楽院の卒業証書はもらおう。大学は、家から通える国立大学の工学部に行つて、ちゃんと稼げる仕事を見つけて、あとは趣味で音楽を続ける。それしかないじゃないか。

というか、それで十分だ。ずいぶんすてきな生き方だと思う。へたにプロをめざして、ろくな音楽家にもなれなくて母に迷惑をかけつづけるより、経済的に安定していて、しかも趣味でフルートを続けるなんて、最高だ。

目の前に分かれ道がある。でもいつまうはふさがっていて、通れない。それは、一本道と同じことだ。ふさがった道をいつまで見ていてもしかたがない。自分が行ける一本道を行こう。

そう思つて大股で歩いていると、ふいに涙が出そうになつた。

(中略)

その日、母にいわれたとおり、夕方六時にレストラン和田に向かつた。母は会場作りを手伝つてゐるはずだ。店には和田さん夫婦と板前さんと、母の友人三、四人しかいないと思つていた。

ところが、レストラン和田は、満席だった。板前さんだけじゃなくて、パキスタン人とフィリピン人の若い見習いさんたちも残つてくれていたし、トスカーナ日本人会の人たちが大勢来てくれていた。みんなもう席についていた。

ほんの数人の内輪の前で吹くと思つていたから、ちょっと緊張してきた。マエストロ・ビーニのいう「適度な緊張」つてやつだ。

食事はブッフェ式になつていて、大テーブルにはお寿司がたくさんのつていた。ガラス張りの厨房では板前さんたちが忙しく動きまわつてゐる。

母のためにこれだけやつてくれているのかと思うと、ぼくは申し訳ないやら、ありがたいやらで、Aが熱くなつた。

「では、みなさんお揃いのようなので、始めましょう。今日は特別パーティです。うちに長年勤めてくれている森さんの就労二十周年記念と、ついでに年齢は忘れたけど誕生日会です。お祝いに、祐司くんのフルート・リサイタルつき！ 会費はひとり、ミュージックチャージなしの格安二十五ユーロー 食べ放題！ ジュースとお茶とイタリア産ビールは飲み放題！ それ以外の飲み物は別途会計だからね！」

和田さんが大声で叫ぶと、お客さんが笑つた。

「んじやまあ、お料理ができるまで、祐司くんのフルートを楽しみましょ！」

和田さんが拍手<sup>はくしゅ</sup>をすると、お客さんもみんな拍手してくれた。

ぼくは頭を下げ、フルートをかまえる。A譜<sup>あんふ</sup>している『シランクス』を、口を開じて吹いていると、B自分とフルートだけの世界にいるような、いつも部屋で月明かりに照らされた丘<sup>おか</sup>を見ながら吹いているような、あの感覚が蘇<sup>よみがえ</sup>つてくる。でも今、ぼくはぼくじゃない。パンだ。牧神パンは、葦笛<sup>あし</sup>になつたシユーリンクスを想いながら吹く——姿はもう見えないけれど、きみはこうして笛になつた。ずっと、ずっと、きみの声と共に生きよう。

そんなパンのせつなさや喜び。

吹きおわつて口を開けると、母や和田さんのほか、数人が涙を浮かべていた。  
Bびっくりした。ぼくの演奏で人を感動させることができるなんて、思いもよらなかつたのだ。

そして店内に、拍手が鳴り響いた。

ぼくは深々と頭を下げた。お客様に喜んでもらえてうれしいのは、夏のマエストロ・ビーニ・マスタークラスの演奏以来だ。  
「プレー、ヴォー！」

と、かけ声がかかつた。ぼくはもう一度軽く頭を下げた。

家で練習してきたとおり、ちゃんとしゃべらなきや。人前で話すのは、フルートを吹くより数倍むずかしい。

「では……えーっと、しんみりしたあと、おめでたい曲を吹きたいと思います。えーっと、ハッピーバースデーの曲ですが、あの、ちょっと勝手に……アレンジしてみました」

ハッピーバースデー変奏曲。最初はシンプルなメロディ。それが

C

変わっていき、原形を思い出せないぐらいになる。

マエストロ・ビニーニの「エンタメ要素」のために、ぎょっとするぐらい速いパッセージをたくさん入れた。そして最後にはシンプルなメロディにもどつて終わる。楽しくて明るいラスト。

今度はみんな笑顔で拍手をしてくれた。

和田さんの奥さんがケーキを出してきて、母がろうそくの火を一気に吹き消した。

「三十周年おめでとう！」

「お誕生日おめでとう！」

あちこちから声がかかつて、母はうれしそうに頭を下げまくった。

「あー、でも悪いけど、ケーキはあとね。先に料理が出ますからねー。あ、あとね、みなさん、打ち合わせどおり、今、例のやつの進呈式をります！」

和田さんがそう叫んだ。

<sup>3</sup>打ち合わせどおり？

意味がわからずにぽかんとしていると、和田さん夫婦がぼくのほうに歩いてきた。和田さんは手になにか持っている。それは日本でなんか見たことがある、御祝儀袋というやつに見えた。

「タタターン。本日のメインイベント。はい。これはきみのおかあさんとぼくたちレストラン和田、そしてここにいるみなさんがしてくれた寄付を集めた、七千ユーロです。きみがおかあさんに渡した犬の散歩のバイト代も全額入つてると思うよ。これでフルートを買いかえてよ。もつといいフルートできみの演奏を聴きたいからさ」

「えっ？」

ぼくは和田さんや店内の人たちを見た。みんなが微笑んでいた。

心臓がバクバク打つて、言葉が出ない。

「あ、あの……」

「きみのおかあさんはね、長年うちの安月給で昼も夜も文句ひとついわずに働いてくれて、明るくてお客様にも人気でさ、助

かってるんだよ。けどね、よく考えたら、二十年間ろくにボーナスを出したことがなかつたんだ。ひどい雇い主だよね」

「ほんとひどいよ、和田さん！」

と、だれかが茶化した。

「で、でも……」

「まあ、うちが出したのは半分だけだから。あとはおかあさんのへそくりとね、みなさんのご好意だよ」うろたえていると、母が「ありがたくいただきなさい」と、立ち上がつていった。

「あ、祐司くん、そのかわりさ」

和田さんがニヤッと笑つて、ほくの手に厚ぼったい御祝儀袋を押しつけていった。

「年に一回くらい、ここでリサイタルやつてよ。どう? もちろんギヤラなし。ヒヒヒ」

和田さんは楽しそうに笑う。

4  
ほくは頭を下げた。

涙があふれだして、もう顔を上げられなくなつた。

「よし、乾杯をして、食べるぞ!」

和田さんのひとことでみんなが「かんぱーい!」「いただきまーす!」と、騒ぎだした。

ほくはイスに倒れこみ、泣いた。はずかしいぐらい、泣いた。

(山典 佐藤まどか『アドリブ』あすなろ書房による)

問一 ～線 a 「ぎょっとする」とあります。これは「意外なことに出くわして驚く様子」を表しています。次の□に入る漢字を一字ずつ書き入れて、驚く様子を表す慣用句を完成させなさい。

⑦ □ を呑む

① □ を丸くする

問二 □ Aに入る体の部位として最も適当なものを次の□から選び、記号で答えなさい。

ア 足 イ 胸 ウ 手 エ 耳 オ 頭

問三

□ B・Cに入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次の□から選び、記号で答えなさい。

A B=たとえ C=ときどき

イ B=まさか C=もちろん

ウ B=決して C=ぶらぶら

エ B=まるで C=どんどん

オ B=もし C=まっすぐ

問四  
——線1「自分が行ける一本道を行こう」とあります、「自分が行ける道を行く」とはどうすることですか。本文中

から一文で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問い合わせと同じ。)

問五

——線2「びっくりした」とありますが、その理由として最も適当なものを次の□から選び、記号で答えなさい。

ア 店内に鳴り響くみんなの拍手の音が、思っていた以上に大きく感じられたから。

イ 周囲の人たちの優しいかけ声が、自分を元気にしてくれるとわかったから。

ウ 心を込めて演奏したのに、数人しか感動していないことが予想外だったから。

エ 演奏した「シランクス」には、みんなを感動させる力があると気づいたから。

オ 自分の演奏が、周囲の人たちを感動させるなんて想像もしていなかつたから。

問六  
——線3「打ち合わせどおり?」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとして最も適当なものを次の□から選び、

記号で答えなさい。

ア これから何が始まるのか理解できずにとまどっている。

イ 自分のために打ち合わせをしていたことに感動している。

ウ 打ち合わせに誘われなかつたことにいらだつている。

エ 打ち合わせにはなかつた進呈式が始まつてあせつている。

オ 進呈式の進行が悪かつたことigaつかりしている。

問七  
——線4「ぼくは頭を下げた」とありますが、この時の「ぼく」の気持ちを四十五字以内で説明しなさい。

問八 本文の内容として最も適当なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 祐司は母に迷惑をかけるとわかつていながら、プロのフルート奏者になることを決意した。
- イ 祐司はたくさんの人々の前で演奏する気でいたが、少人数しか参加していなかつたため驚いた。
- ウ パーティに来てくれた人たち、祐司のフルートの演奏に感動したり楽しんだりしていた。
- エ レストランで長年働く祐司の母は、安月給なうえにボーナスがないことを不満に思っていた。
- オ 祐司の母は息子が<sup>かねこ</sup>プロになる夢をかなえるため、みんなに声をかけてフルート代を集めた。

〔三〕次の各問い合わせに答えなさい。

問一 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① アンケートにカイトウする。  
② 煙にヒリョウをまく。  
③ 魚がオヨいでいる。  
④ 人形をアヤツる。  
⑤ ミッショウを避ける。

問二 次の——線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① けがの功名。  
② 静かにとびらを開閉する。  
③ 桜の木を植える。  
④ テレビの画像が乱れた。  
⑤ 新しい法律について考える。

一

問一

--

問二

--

問三

--

別

問二

--

問四

--

問五

--

)

--

問六

--

問七

--

問八

--

二

問一

①
②

問二

--

問三

--

問四

--

)

--

問五

--

問六

--

問七

--

問八

--

三

問一

①
②

③

④

⑤

問二

①
②

③

④

⑤

名前は書かないよろしく  
右につめて書いて下さい

受験番号
------